

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
部 長	森朝 紀文
次 長	出山 恭隆
主 幹	中川 直樹
主 査	高橋 和代
主 査	泉原 里絵
主 査	安井 結香里
主 査	若林 里絵
主 査	西村 亜希子
主 査	西井 拓人
	河津 敏明
	島田 弘子 (12 月退職)
	松浪 美和
	宮本 紅喜
	北庄司 敦久
	原 義浩 (3 月退職)
	宮本 訓子
	小垣 睦
	南 佳代
	山道 麻葉
	上田 祥子
	伊藤 健二
	中川 貴弘
	藪内 新平
	山地 亜希 (12 月退職)
	松本 光司
	越山 晶弘
	岡本 典久 (10 月入職)

—概要—

薬剤科では、調剤、注射薬の無菌混合調製や服薬指導等のさまざまな業務を行っている。特に、2012年度の診療報酬の改定により、病院薬剤師の念願であった病棟薬剤業務実施加算が新設されたのを受け、全病棟に病棟専任薬剤師を配置し、オーダ入力支援等の新しい業務を実施することにより算定を行っている。

厚生労働省医政局通知「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」が発出され、薬剤師がチーム医療に参画することが求められており、当院では感染対策チーム (ICT)、栄養サポートチーム (NST)、褥瘡対策チーム、緩和ケアチームに積極的に参加し、医師、看護師等と共に多職種で病棟ラウンドを実施している。特に、抗菌薬適正使用支援チーム (AST) では、専任薬剤師を配置し、薬の専門家として積極的に適正使用を推進している。また、生活習慣病予防教室にも参加し、薬剤師が薬に関する患者向けの講習会を行っている。薬剤科では今後とも、質の高い病棟薬剤業務の実践と有効かつ安全な薬物療法を提供するため、以下の4項目を基本的な理念としている。

《基本理念》

1. 薬の専門家として、患者さんにとって有益な薬物療法を提供する。
2. 薬によるインシデント・アクシデントを減少させ、安全な薬物療法を提供する。
3. 臨床薬剤師として医療チームに貢献する。
4. 薬剤師の職能を高めるため、研究心を持って日々努力する。

—実績—

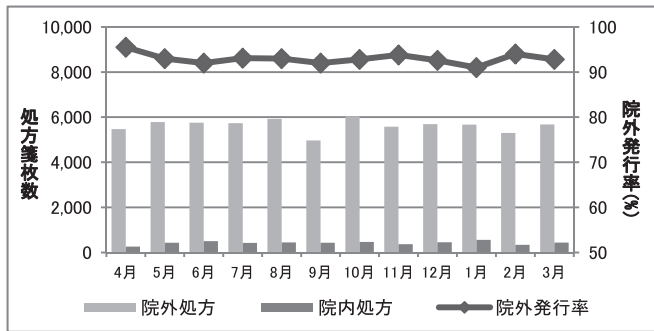
2000年4月より、病院運営の一環として、「医薬分業の徹底と薬剤科病棟業務の充実」に基づき、全面院外処方せん発行を行い、2018年度月平均の発行率は93.0%を達成している。(グラフ1)

薬剤管理指導業務における服薬指導実施患者数及び指導件数については、月平均の指導患者数756名、指導件数893件(退院加算261件)と順調な推移を示している。(グラフ2)

また、無菌製剤処理加算の施設基準を2001年3月に取得し、TPN製剤の調製を行っているが、2010年8月より一般の点滴を含めた全ての注射薬の無菌混合調製を行っている。2018年度における混合調製の実績として、調製本数は月平均716本、年間8,600本となっている。(グラフ3)

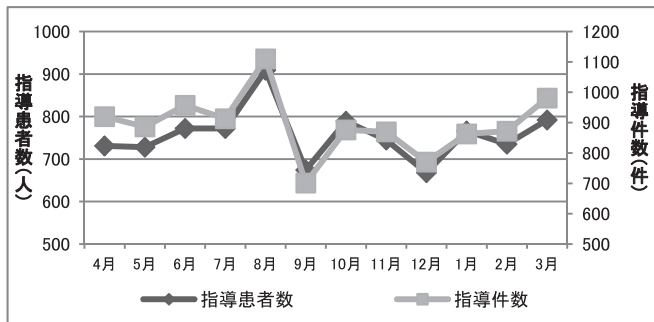
次に、外来の抗がん薬の混合調製を2002年8月より開始し、2004年12月より外来・入院の全患者について、抗がん薬のレジメンの一元管理と調製を実施している。2018年度における実績は月平均337名、年間4,043名の患者に調製を行い、調製本数は月平均495本、年間5,939本となっている。(グラフ4) また、2014年4月より外来がん治療センターにがん薬物療法認定薬剤師を配置し、がん患者指導料を月平均約41件算定している。

さらに、2008年4月より、全ての入院患者において薬剤師による持参薬の鑑別業務を開始し、2018年4月からは、患者サポートセンターに薬剤師を常駐し、外来の入院予定患者にも実施している。2018年度における実績は月平均480人、3,262剤となった。(グラフ5)



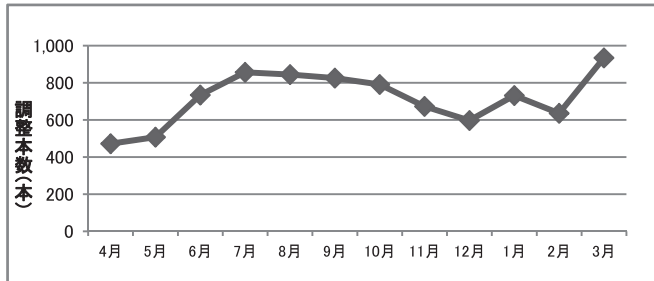
(グラフ1)2018年度処方箋枚数と院外処方箋発行率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
院外発行率	95.5	93.0	92.0	93.1	93.0	92.0	92.8	93.8	92.6	91.0	94.0	92.8
院外処方	5,473	5,784	5,758	5,730	5,923	4,969	6,038	5,575	5,693	5,668	5,302	5,673
院内処方	259	433	502	425	444	435	468	368	455	558	338	439



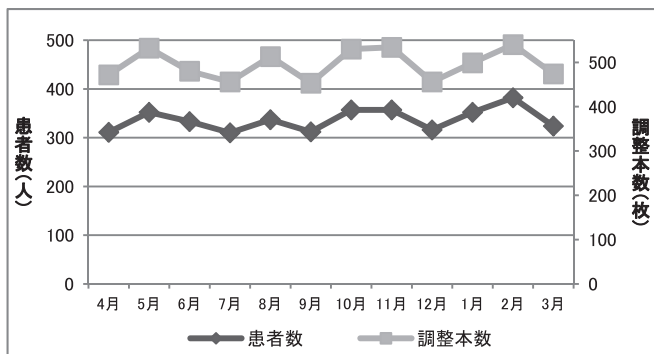
(グラフ2)2018年度服薬指導実施人数・件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
指導患者数	731	728	772	772	909	674	789	745	668	766	735	792
指導件数	920	886	957	913	1110	701	876	870	770	863	872	981



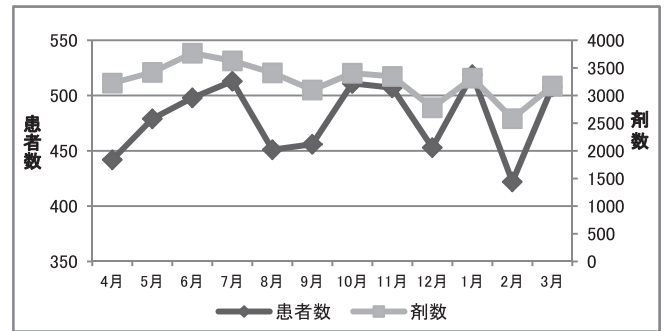
(グラフ3)2018年度注射薬無菌調製本数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調製本数	472	507	734	856	844	825	791	673	597	731	636	934



(グラフ4)2018年度抗がん薬調製患者数・調製本数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数	311	352	333	310	337	312	357	357	316	352	382	324
調製本数	472	532	480	456	513	453	530	534	456	499	540	474



(グラフ5)2018年度持参薬鑑別患者数・剤数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数	442	479	498	513	451	456	511	507	453	519	422	508
剤数	3,224	3,419	3,767	3,628	3,409	3,101	3,406	3,348	2,779	3,316	2,582	3,174

—今年度の成果と反省点—

今年度は、4月に新設された患者サポートセンターでの薬剤師による持参薬の鑑別、面談指導を充実することができた。また、抗がん薬の調製患者数、本数とも増加し、外来がん治療センターでの薬剤師によるがん患者指導料の算定件数も増加した。しかし、薬剤師の退職者が多く出てしまったが補充をできなかったため、集中治療室における病棟薬剤業務実施加算2の算定の取り下げを余儀なくされた。薬剤管理指導件数は、何とか例年の件数を維持することができたものの、薬剤師の人員確保が課題となった。

—来年度への抱負—

来年度は、薬剤師の人員不足がないように迅速に対応する。また、薬剤管理指導業務は、指導件数を増加させるのみではなく、質を向上させる取り組みを行いたい。また、ICT,NSTなどの多くのチーム医療に参画しているが、各領域で薬の専門家としてさらに能力を発揮出来るようにするために、認定、専門薬剤師等の資格の取得を推進していく。

